



自ら学ぼうとする子供を育むには、「互いのよさを認め合う学級づくり」が重要です。授業は生徒指導の場の一つです。そのためには、生徒指導の実践上の視点を生かした授業づくりを意図的に展開していくことが大切になってきます。

【生徒指導の実践上の視点とは】

- 自己決定の場の提供
- 自己存在感の感受
- 共感的な人間関係の育成
- 安全・安心な風土の醸成

「授業」における生徒指導の実践上の視点を生かした例

自己決定の場の提供

自分（たち）で決めさせることで、必要感と責任感を伴わせます。

子供から問いや思い・願いを引き出す

やってみたいことを引き出す

これをやると決めたぞ！

みんなのために、〇〇をしたい！



〇〇をやってみたいんだね！一人一人の力を合わせればできると思うよ！

自己存在感の感受

自分が学級や授業の役に立っているという実感をもたせます。

全員がアウトプットする場を設け、授業へ参加できたことやよりよい考えをもつことができたことへの実感をもたせる

友だちや先生から認められる場を設ける

〇〇さんの説明のどこがよかったかな？

今、自分が説明した考え方は伝わったかな？



考え方の順序を分けて説明していたところがよかったので、自分も真似したいと感じました。

共感的な人間関係の育成

安心・安全な風土の醸成

授業で見た学び方のよさや課題から、学級のよさを見つめさせていきます。そして、この学級だからこそできた、できそうだという実感をもたせ、意欲や挑戦する心を育てていきます。

つまずきに寄り添う

学び方のよさを価値付け、そのよさを全体に広げる

例) 「ここが分からない」と言ってくれたから、みんなの学びが深まったのですね。

例) 今日の授業で、すごいと感じたことがあったんだけど、どんなことだと思いますか？

例) 今日の授業で「次はこうすればもっとよくなるな」ということがあるんだけど、何だと思いますか？



この学級でよかった！

次も(は)こういう学び方をしていこう！



上記は、あくまでも生徒指導の実践上の視点を生かした学級づくりの一例です。「導入」・「展開」・「まとめ・振り返り」に分けて記していますが、授業の展開によって生かす場面は変わってきます。

大切なことは、子供のよさを引き出し、そのよさを実感させていく教師の意図的な関わりが互いに高め合おうとする学級づくりにつながるということです。そのために、求めている学び方や育成したい資質・能力から、子供の学びの姿を具体的に想定し、子供一人一人の学び方のよさを見取っていきましょう。